

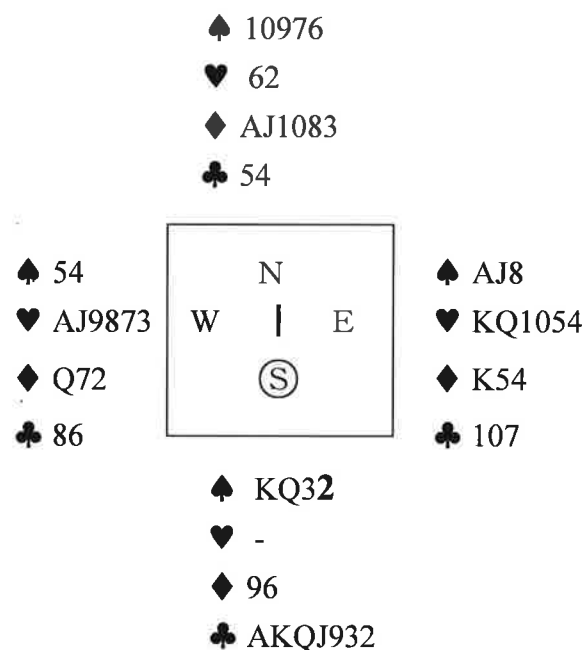


ブリッジ名著訪問 (2)

2018.11.16

ブリッジの名著訪問の第 2 回として前と同じ著者の Robert Darvas と Norman De V. Hart が書いた Right Through The Pack A Bridge Fantasy, 1948 を紹介しましょう。

この本は、スペードのエースからクラブの 2 までの 52 枚が各々自分が主役になったときのハンドの逸話を、アラビアンナイト風に各カードが話をします。その中からスペードの 2 が話すことを紹介してみましよう (訳 難波田):



“役割の交換”

スペードの 2 が話し始めます「私たちカードは上手なプレイヤーに配られたのでラッキーでした。めったにない面白いハンドで、NS はバル EW ノンバル、ビッドは思い切りのよい積極的なものでした。

S	W	N	E
1 C	1 H	2 D	4 H
4 S	P	P	5 H
P	P	5 S	X
P	P	P	

W はハートエースをリードし、S はスペードの 3 でラフし、トランプの Q をだしました。E はエースで上がって、またハートを出します。ここでディク

レアラーは、ハンドに私 2 と主君のキングの 2 枚だけがあるのを見ながらしばらく考えはじめました。どうして私をすぐに出さないのだろうと、ドキドキしてきました。そしてついに大いなる瞬間を迎えたのです。ディクレアラーはハートをラフするのに主君のキングの方を出し、私はトランプを刈るのに使ったのです。主君と私は役割を交換したのです。

どうしてそうしたか皆さんはおわかりでしょう。クラブスートを取るためには、トランプは刈りきっていないといけません。もしトランプの 2 でラフしていたら、キングをキャッシュしてもジャックが落ちてこなかったら、ダミーにダイヤモンドで渡ってトランプを負けにいても、ディフェンダーはダイヤモンドをキャッシュできますからダウンします。

トランプが 4-1 ブレークならメイクすることは不可能ですから、ディクレアラーは 3-2 のことだけを考えればよいのです。トランプは J ダブルトンでないかぎり 2 ルーズすることは必至です。トランプ K でラフするというアンブロックはトランプ J ダブルトンの時のオーバートリックのチャンスをあきらめることにはなりますがコントラクトは安泰です。E はトランプ J で取っても残りは DA でダミーに渡って S10 で刈りきってハンドからはルーザーのダイヤモンドをディスカードしクラブを全部取ればよかったのです。二人にとっては、ぜひ話す価値があったことと思いませんか？」

「まさしく」とスペードのキングは言い、満足げなスペードの 2 に手をさしのべ、かがんで熱烈にキスしました。また続けて「ディクレアラーの優れた分析も皆に宣伝する価値があったことです。プレイにとって正しい方向である限り、我々のような位の高いものにとってつまらなさすぎる仕事などはないのです。S2 にとっても犠牲にならなかったことは立派すぎるのです」

著者補足

E が最初の SQ をホールドするとどうなるか？さらにディクレアラーがスペードを続けるとハートのストッパーが無くなってしまい、もう 1 つハートを取られて 1 ダウンします。だからといってここでクラブを走ると 3 回目にたぶん W がラフするでしょうから、ダミーでオーバーラフできます。これが E にオーバーラフされないで取れてしまうと、トランプをダミーから引きます。これは SA に上がられてダイヤモンドを出されてダミーに入ってしまったとしてもトランプで戻りあとはクラブを全部取ればよいのです。なお W が 3 回目のクラブをラフしないしているとダミーはダイヤモンドをディスカードし E が SJ でラフします。ここで E はダイヤモンドを出すと、ディクレアラーはダミーの DA を上がりますがダミーのダイヤモンドを全部ディスカードできませんから 1 ダウンです。なおスペードをホールドしないですぐ SA を上がった時にダイヤモンドを出すと今度は SJ をフィネスされてしまいます (5 メイク)